

私のおすすめ

ひそやかな音楽、響きわたる孤独

図書

図書館嘱託職員 木暮照美

今回紹介させていただくのは、スペインの作曲家、フェデリコ・モンポウ(1893～1987)の伝記である、『ひそやかな音楽』です。私が彼の作品を知ったきっかけは、学生の頃に聴きに行ったアンヌ・ケフェレックのピアノリサイタルです。その時にアンコール曲として演奏されたのが、彼が生涯にわたって創作した連作である、「歌と踊り」第4番でした。ケフェレックの優しい音色と相まって、穏やかな気持ちになったことを今でも覚えています。

この本は、彼が生前親しくしていた友人、ジャネス・イ・オリベの息女であるクララ・ジャネスによって著され、ピアニストの熊本マリによって日本語訳されたもので、モンポウの生涯や作品、交友関係等のエピソードがとても丁寧な筆致で書かれています。家族が鐘鋳造の工場を営んでいたこと、そこで鐘の構造や音の響きを探るのに夢中になっていたこと、バルセロナで行われたフォーレの演奏会をきっかけに音楽を志したこと、スイーツの販売を手がけていた時期があったこと、などなど…。文章だけでなく、写真や手紙、自筆譜など、図版も充実しており、様々な角度から彼の生活や人間性が垣間

見えるような1冊となっています。

個人的に興味深かったのは、随所に挿入されている作品のスケッチの数々です。言葉少なでシンプルではあるが、素材一つ一つを大事に扱おうとしており、それでも時折迷いがあるような筆致からは、彼の性格や内面での葛藤が見えてくるようでした。他にも、自ら考案したピアノの調律法や和声のメモなども載っており、何かを生み出そうとしていた静かな強い意志を感じます。

それらを見て想像力を巡らせた後、本文中のモンポウの言葉「私の目的は、最も研ぎ澄まされた内なる耳でも容易には出会えないような響きを創り出すことでした。逆に、私の人生はまったく内面的そのものです…。私の心のうちでは、決して表には出てこない不思議なことどもが次々と生まれています(略)」を読むと、それがより深みをもって自分の中に響くように感じられました。



『ひそやかな音楽：フェデリコ・モンポウ生涯と作品』クララ・ジャネス著 熊本マリ訳 東京音楽社 1993 請求番号●C58-373

こぐれ てるみ ● リニューアルしてより快適な空間になった図書館で働けることが嬉しいです。どうぞよろしくお願いたします！

Information

自宅からも図書館をご活用ください！

図書館が契約しているオンラインデータベース、楽曲・映像配信サービスを使うと、自宅から調べものをしたり、論文などを読んだり、音楽や映像を視聴することができます。ぜひご活用ください(学外から利用できるのは国立音楽大学の学生・教職員のみです)。また、WebOPACやデータベースの利用方法は図書館ホームページでご案内していますので、あわせてご覧ください。



オンライン授業に伴うサービス

大学のオンライン授業の開始に伴い、5月よりオンライン授業対象の学生と教員へ下記のサービスを行っています。

- ・資料の宅配貸出
- ・文献複写郵送サービス
- ・レファレンスサービス

図書館資料活用のため、オンライン授業期間中は継続して実施します。詳しくは図書館ホームページでご確認ください。

開館日程などにご注意ください。

今年度は開館日程が例年と大幅に異なっています。また、利用できるサービスに制限のある場合があります。詳しくは図書館ホームページでご確認ください。

■ 表紙：原怜那 武蔵野美術大学造形学部デザイン情報学科3年
 ■ 発行：国立音楽大学附属図書館
 ■ 編集担当：高橋京子・宮部真砂子

■ 国立音楽大学附属図書館
<https://www.lib.kunitachi.ac.jp>
 E-mail info_lib@kunitachi.ac.jp